

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と家族の皆様の声に耳を傾け、願いを大切ににし、共感しながら共に安心した生活を送ることができるように援助します。	○ 地域に根ざして取り組んで行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を1・2階ホール、相談室に掲示し、職員は朝礼時に理念を読み上げ、実践に向け取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月、家族宛にホーム便りを発行し、理解してもらえるよう取り組んでいます。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	街中の散歩を兼ねて近くの商店に買物に行った時などは、顔馴染みになった地域の方や店員さんへの挨拶を心掛けています。また職員も地域活動の一環としてお祭等に参加し、地域交流の取り組みをしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会、行事、地域活動等への積極的な参加は実現されていないが、地域住民の方とホームの防災訓練等に取り組んでいる。	○ 今後は地域文化祭に利用者の手工芸作品の出展に取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ特に取り組んでいません。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価は全職員で取り組むことは理解しており、日々の介護業務を通して改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では要改善項目の説明、改善点について話し合いを行い、サービス向上に向けて取り組んでいます。また、ヒヤリハットや事故報告を報告し質問・意見・要望を聞き、サービス向上に取り組んでいます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に取り組んでいませんが、機会があれば市町村担当者と連携を図り、サービス向上に取り組んで行きたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会など参加していません。また、現在のところ制度利用を必要と思われる利用者はありませんが、必要性が生じた場合は活用できるよう支援して行きます。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会など参加していませんが、学ぶ必要性は感じています。そして、全職員は虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています。	○	外部研修会等に参加して知識を習得し、虐待防止に取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約説明・手続きは利用者がリラックスして気軽に相談、質問し易い様に、家庭訪問をして懇切丁寧に分かり易く説明し理解、納得を得ています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>これらの受付方法は「重要事項説明書」に記載し、苦情・相談対応委員会を設置して解決に当たっています。そして、スタッフ会議等で報告し運営に反映させています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のホーム便りで本人の生活・健康状態や職員の異動等を知らせています。特に体調不調、事故発生等は速やかに連絡を行っています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>これらの受付は苦情・意見箱を設置するも投書はなく、家族から直接職員に口頭で受けた場合は苦情・相談受付書に記録し、スタッフ会議に報告して運営に反映させています。</p>	<p>○ 苦情・相談の対応マニュアル書を作成し、今後の適切な介護サービス向上に繋げて行きたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回開催される職員会議や日々の介護業務を通して個々に意見・提案を聞き反映させている。</p>	<p>○ 日常から意見・提案をし易い様に取り組み、改善に反映させるようして行きたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の急な休みは他職員と勤務調整して対応をしている。また夜間に利用者の状態変化時は急変事態発生時連絡体制により職員の緊急出動をしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員は決めており、利用者への配慮をした上でローテーションを組んでいます。今まで異動・離職があったがダメージを与えるような状況はありませんでした。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTで介護業務を習得し、行事企画等はベテラン職員と一緒に計画立案したりして技術・知識の習得を図っています。	○	経験・習熟度に応じて外部研修会の参加に取り組んでいるが、全職員の共有化を図るための研修報告できる機会を作って行きたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の同業者との友好関係は築いており、情報・意見交換等を行ってサービス向上に取り組んでいます。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々職員との会話を交えながら、ストレスや悩みを把握するよう努めているも、中々ゆっくりと話す機会が取れていない。他法人の同業者の交流やサービス部門会の参加を交えながらストレスの緩和を図って行きたい。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の介護業務を通して協調性、積極性、接遇、勤務態度等について自己評価法を取り入れて、賞与に反映させて向上心が持てる様に努めている。また、資格取得を目指して行けるよう支援する。	○	外部研修会等に参加の機会を作り、向上心が持てることを期待したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学に来てもらったり、職員が家庭訪問したりして本人の心身状態の把握、日常生活で困っていることや不安なこと、生活歴等をよく聴き、受止めるよう努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の思いや求めているものをよく聴き、受止めるようにしています。そして、家族の訴えと本人の思いや気持ちの相違に留意しています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの状況・経緯等を受付相談記録に記載し、必要に応じては本人の係わる介護サービス事業所、医療機関から可能な限り情報を集めて、最もより良い支援に繋げる努力をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設に案内して一緒に食事をしたり、手工芸作りや茶話会等に参加してもらい、徐々に馴染みながら抵抗感を減らす。そして、安心してサービスが受けられるよう努力をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に職員は本人と向き合う時は目線を同じにし、人生の大先輩である本人の人生観、生活文化等を尊重し傾聴する態度を示す。そして、お互いの日常生活を通して教え学ぶ機会を大切にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家庭事情等を配慮し、本人の生活状況の連絡でも職員も家族と同じような気持ちである様に家族と一緒に支えて行けるよう築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外泊や一緒に買物・食事等の外出も殆んど見られず。	○	本人と家族が一緒に参加できる様な行事を取り入れて、より良い関係を築いて行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩、買物に行った時に馴染みの知人、お店等に立寄りたりしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有空間・廊下にソファやテーブル・イスを配置し、利用者同士が憩いの場所として過ごせるよう支援している。また、趣味活動時間の手工芸では利用者同士が関わり合える様に努めています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	暑中見舞い・年賀状で挨拶。医療機関に入院した場合はお見舞いに行ったりして、断ち切れないよう努力しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の過ごし方、食事、入浴等の様々な場面に本人の意向に沿える様に努めている。	○	思いや望む暮らしは変わって行く事に留意し、利用者が本音を語ってもらえる様な関係を取り組んで行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に本人、家族、他サービス事業所より生活歴・趣味・嗜好等の情報を収集し、入所相談記録に記載して把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタル測定を実施し、身体的・精神的な変化や残存能力の見極め等に留意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、利用者一人ひとりの介護計画の作成に努めているが、本人・家族の思いや要望を十分に反映させていない。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎の見直しをしているが、新たな問題が生じた場合の計画が速やかに作成されていない。	○	状態によって見直しの必要性が生じた場合は、見直しを行う様に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録しており、趣味活動状況や介護従事者の考察も記載している。必要に応じては連絡ノートにも記載して情報の共有化を図っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みのお店や老人会等の集会に外出できるよう支援したり、併設の医療機関との連携で健康管理・医療体制で柔軟な対応を支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事計画に心身のリフレッシュを図る為に、地域ボランティアの協力と支援を受けている。	○	地域公民館の福祉担当者と職員同士が意見交流を行い、お互いの協働点を見出すよう取り組んで行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	出張理美容サービスを利用する支援はもとより、気分転換を兼ねて、直接に理美容店でサービスが受けられるよう支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていませんが、必要性に応じて地域包括支援センターと協働して行く意向はあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関との連携で、常に健康・医療管理されており適切な受診・往診支援体制は整っている。また、必要に応じては他医療機関への紹介、情報提供等の支援を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の医療機関との連携で専門医の紹介、情報提供等を行っており、職員が直接に専門医からの助言・指示が受けられる様に支援している		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の医療機関の看護師との協力体制は整っており、利用者の健康管理に支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	併設の医療機関と連携して対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所前に書面で説明しており、併設の医療機関と連携して対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設医療機関とのチーム支援体制は整っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在ところ該当者ありませんが、本人・家族の要望があれば他関係機関への支援に努めます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の言葉使い、応対、記録等のプライバシー・個人情報の取扱いには十分に配慮している。また、個々の居室ドア入口の写真は本人・家族の了解を得ております。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	表現力の支援で認知面で起因する場合や、今は情緒的に混乱したり、大きなショックを受けている為にそうした力が出せない場合を留意し、職員は表現されない事柄を把握しながら自己決定に繋がる様に支援しています。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活リズムを大切にしています。	○	一人ひとりの体調に配慮しながら、本人の希望を具体的に出来るよう努めて取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の行きつけの美容院等を利用出来るように支援しています。また、施設行事や外出時は自分の気に入った洋服を着たり、お化粧品のお手伝いをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を献立に取り入れたり、一緒に食材の買物に出かけたり、本人の使いなれた箸・食器・カップを使用すれば食事の楽しんでもらう様に努めている。そして、食材切り、味付け、配膳、下膳を一緒に行っている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みを把握しており支援している。但し、居室内の飲食物の持込みで喉に詰まりそうな物、生もの等は制限する場合がある。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全員、排泄行為は自立しています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ本人の希望に沿う様に入浴方法、曜日、時間等を相談して支援できるよう努めている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩・買物・レクリエーション・TV体操等に参加し、適度な身体を動かすことによって気持ちよい安眠を促進するよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買物、散歩、洗濯、掃除、台所仕事等の自宅と同じ様な日常生活動作を活かした支援を行っている。	○	一人ひとりが楽しめる手工芸・趣味等を模索し、取組んでいきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買物に行き、出来るだけ本人が直接支払えるよう支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩、買物に同行し、本人の希望に沿う様に努めています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を味わってもらう為に花見、紅葉狩りや名所等に外出しています。必要に応じては家族と連携し、外出できるよう努めている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望があれば電話を掛けれるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来訪してもらえるようにホール、窓際にはテーブル・イスが用意しており、ゆっくりできるような雰囲気作りに努めています。訪れた方にはお茶、コーヒー等を入れおります。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を必要とするような該当者はありません。全職員は身体拘束が禁止について認識している。	○	身体拘束等排除マニュアル書を作成し、職員の共通認識として取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	外部研修会等に参加し、全職員が学ぶ機会をもつ様に努めたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	今後も町内会の協力体制が継続維持出来るよう、積極的に町内会の会合に参加し取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>常に日頃、心身の状況を電話や来訪時に報告して、起こり得るリスクについて家族に説明して対応策の話し合いをしています。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日バイタルチェックを実施し、些細な変化にも注意しています。体調異変を発見した場合は併設医療機関に報告して対応をする。また、個人記録の記載し申し送り時に状況を伝えています。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人記録に薬の説明書を綴じており、薬の作用・副作用・用途・用量は理解しています。服薬時は直接本人に渡して服用するのを見届ける。特に眠剤・安定剤の服用後は心身の変化に注意をしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘になりやすい方には水分の補給・食事の工夫・適度な身体運動を促し、便秘の予防と対応に取り組んでいます。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施。また、虫歯・歯槽膿漏・義歯の噛み合わせ等で受診が必要な場合は、協力歯科医院に受診できるよう支援します。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量を記録し、好き嫌い・アレルギーの有無について把握している。水分は定期的に食事時・おやつ時・入浴後に摂取し、いつでも自由にコーヒー・お茶等は飲んでもらえる様に支援をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	全職員は定期的な健康診断とインフルエンザ予防接種を義務付けて感染症の予防・防止しています。利用者のインフルエンザ予防接種は本人・家族の了解を得て受けています。また、新規に入所する方は肝炎有無の診断書を求めています。	○	インフルエンザ・ノロウイルス・肝炎は対応の取り決めはあるが、疥癬・MRSAは無いので取り組んで行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具は次亜塩素酸に浸した後に清拭を行い衛生管理に努めている。また食材管理として野菜・魚・肉類は買い置きをしない様に取り組んでいます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りはアスファルトに囲まれており、玄関口のプランターに草花を植えて、玄関ホールには観葉植物を置くなどして少しでも親しみ易く、家庭的な雰囲気作りに工夫をしています。しかし、冬の寒い時期は出来ていない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の大きな窓側面のブラインドをレースカーテンに換え、小さなテーブルには生花を置いてゆっくりに出来るように工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には思い出の写真や使い慣れた家具等を持ち込んで、自宅の様な雰囲気を工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の掃除・シーツ交換時の換気。また、異臭がある場合は換気を行っている。居室の温度調整は利用者の状況に応じて適温に調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽に簡易型手摺を取り付け、一人ひとりの身体機能に合わせて、安全に入浴ができるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室にドアーに本人の希望を聞いて、ネームプレートを掛けたり、写真を飾って分かり易いようにし、トイレにも絵入りの表示をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	街中により直接土など触れる事は出来ないが、プランターや植木鉢等を利用して植物を育てたりして楽しんでいます。また、天気の良い暖かい日は玄関前に集まって外の空気を吸い、歌など唄って楽しんでいます。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは松江市街中に位置し、都市型の便利性と医療機関に併設されているホームです。
併設の医療機関との連携で医療の支援体制は充実しており、本人・家族が安心して暮らせるよう支援しています。